

北海道幕別高等学校

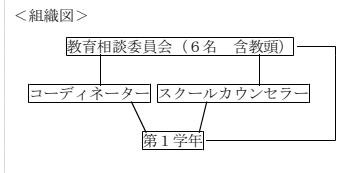
課程 全日制
学科 普通科
生徒数 144名

1 取組の特徴

本事業を柱に、総合的な学習の時間等を活用し、地域との連携を図りながら、様々な角度から「こころの教育」を行っている。

2 取組のねらい

どのような場面でも対応できる「生きる力としてのソーシャルコミュニケーションスキル」の構築を早い段階から習得することをねらいとする。調査結果を詳細に分析し、総合的な学習の時間等を最大限に有効活用する。



3 取組の経過

4月 YG検査	10月 自己分析とトラブル回避
5月 ビアサポートトレーニング コミュニケーショントレーニング	1月 校内研修会 「精神分析と生徒指導」 第2回学校環境適応感調査
6月 第1回学校環境適応感調査 異世代とのコミュニケーション (赤ちゃんふれあい体験)	2月 異世代とのコミュニケーション (そば打ち体験) コンセンサス学習 (宿泊研修)
7月 TEGⅡ検査	3月 実施の検証
9月 デートDV防止講座	

4 取組の内容

- (1) ビアサポートトレーニング (平成23年5月9日(月) 3・4時間目)

講師 函館大谷短期大学客員教授 中野 武房氏

「学校生活で大切にしたいこと」をランキング付けし、お互いの意見を発表しあった。ただ単に大切にしたいことを順番付けするだけでなく、それを選択した理由を付け加えたことで、いろいろな価値観や考え方があることや自他ともに認め合う大切さを学んだ。

生徒の感想 (1年生女子)

「大切にしなければいけないことを考えさせられました。くじけない強さや友達を大切に生活していきたいです。」

- (2) コミュニケーショントレーニング(平成23年5月16日(月) 3・4時間目)

講師 函館大谷短期大学客員教授 中野 武房氏

背中合わせで座った場合と向かい合わせで座った場合とでは、図形伝達の理解度が違うことを確認させ、一方通行ではなく、相手の表情や理解度を察知しながら双方通行でコミュニケーションをとることの大切さを学んだ。

生徒の感想 (1年生女子)

「相手に正確に情報を伝えるには、声の大きさは当然ですが、表現方法や言葉も考えて話すことが大切だと思いました。」

- (3) 自己分析とトラブル回避(平成23年10月17日(月) 3・4時間目)

講師 函館大谷短期大学客員教授 中野 武房氏

事前に行ったエゴグラムテストで自分の傾向を分析し、理想のエゴグラムを作成することで、これからの自分になるべく姿を認識した。また、良いところを褒め合う演習を実施。5つに分けられた自我状態から自分の良いところに自信を持って行動することや相手の良い面を見る習慣をつけることの大切さを知った。さらには、仲間とよりよい関係を築くためのトラブル回避についても学んだ。

生徒の感想 (1年生男子)

「人との会話のひとつひとつが大切だということに気づいた。トラブルを回避するための受け答えなども知ることができ、とても参考になる内容でした。」

5 次年度に向けて

1 成果

- 2年連続不登校の生徒がおらず、1学年の中途退学者数が前年度より15.3%減少した。
- 本事業の活動を通し、生徒は自己理解、他者理解を深め、より良い人間関係の中で学校生活を送ろうとするようになった。また、集団になじめなかった生徒が、輪の中に入り学校生活を送ろうとする姿が見られ、調査による生活満足度も高まった。

2 課題

- 講師の先生がいなくても、当事業同様の活動が日常的に展開できるよう、学校独自のプログラムを計画作成していくための組織を編成する必要がある。
- 学校環境適応感調査等により教師のサポートが必要となった生徒に対する個別のカウンセリングを行うための校内体制を構築する必要がある。

3 次年度に向けて

- 分析したデータをもとに、全職員がクラスの状況や生徒について理解し、個々の生徒に適切な対応をとるために、アセスに関する研究会やケーススタディーを主とした実践的な研修会を企画する。
- きめ細やかな指導を充実させるため、教育相談委員会を中心に校内体制の再構築を図る。
- 講師のアドバイスを受けながら、教育相談委員会では本校独自のプログラムを開発し、試行する。